

DIVERSITY

ダイバーシティ

多様性社会の実現と工学系女性研究者の研究力向上と育成・支援に向けて

本学では、性別・年齢・国籍・宗教・性自認などの多様性を尊重し、だれもが自身の個性を活かしつつ、能力を発揮できるキャンパスの実現に向け、ダイバーシティ&インクルージョンを推進しています。また、理工学分野の女性比率向上に向け、女子学生・女性研究者の支援や快適な環境づくりにも注力しています。

今までの取組

✓ ダイバーシティ推進活動のこれまで

これまで意識・風土・制度の面から、様々な取組を行ってきました。意識啓発のためのセミナーを開催し、アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）やハラスメントのないキャンパス・職場環境づくりをしてきました。2017年度には、附属図書館に女性支援エリアを設置し、学内外の女性が安心して活動できるエリアを整備しました。また在宅勤務制度の導入や育児支援制度等の整備により、2019年には女性教員比率が約12%にまで向上し、男性育児休業取得者も増加しました。2016年度に設置した男女共同参画推進本部を2020年度にはダイバーシティ推進本部へと名称変更し、それに合わせて「EQUAL宣言」を再定義し、周知・広報活動を実施しました。



更衣室・パウダールーム



休憩室



EQUAL宣言

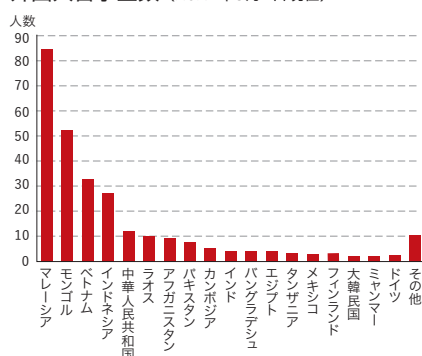
✓ 女子学生比率の向上に向けて

工学系分野の女性研究者比率は、世界的に見ても少ない傾向にあります。2015年に女性活躍推進法が制定され、女性が活躍しやすい環境づくりが加速しています。本学では、女子学生比率をさらに伸ばすために、女子学生特別支援制度に採択されたリーダーとして次世代を担う女子学生メンバーを中心に、冊子やポスター作成、イベント開催などを行っております。また近隣の大学や自治体と連携して中高生向けの理系進路選択支援を行い、女子学生比率の向上を目指しています。

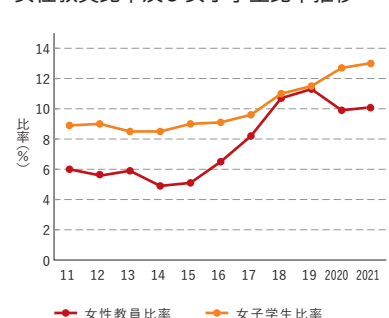
理工学分野を目指す女性に向けて、現役女子学生や本学OGからのメッセージ、女子学生に関するデータなどの情報を発信している冊子です。



外国人留学生数（2021年5月1日現在）



女性教員比率及び女子学生比率推移



実績

✓ 女子学生特別支援奨学生との活動

2019年度から、就学・生活環境の改善を提案することや、男女共同参画事業の企画や広報活動へ参加することに意欲がある女子学生に対し、経済的な支援を行う「女子学生特別支援制度」を設け、採択された学生も参画し、ダイバーシティ推進活動を行っています。2021年度は、「ジェンダーバランスってアンバランス？」をテーマにした意見交換会を開催し、成果を学内外に発信しました。



✓ 学長との意見交換会

学長と教職員または学生との意見交換会を、様々なテーマに沿って、年に数回程度行っています。そこで上がった問題点や改善案を踏まえ、しっかりとPDCAサイクルを回して制度に反映させています。これまでに、「みんなのトイレ（ジェンダーレストイレ）」の設置や防犯ブザーの設置等トイレの整備、日本語・プレゼン講座の実施、託児費用の支援など、皆さんの意見を聞きながら、環境や制度の整備を順次行っています。

✓ 教職員・学生の意識啓発等の取組

教職員・学生の意識啓発・改革の活動として、ハラスメント防止やLGBTQに関する講演会を開催してきました。2021年度は、「ジェンダードイノベーションズと無意識の偏見」をテーマに講演会を開催しました。また、冊子「多様性への理解」を作成し、学内及び関連機関への配布を行いました。



将来展望

ダイバーシティ活動を通して次世代のリーダーを育成

本学におけるダイバーシティ活動をさらに発展させるため、2022年4月に「ダイバーシティ推進センター」に組織を拡充しました。現状として、理工学分野におけるジェンダーバランスには課題があります。この分野における女性の研究者や学生が少ない理由として、理工学分野への苦手意識、ロールモデルの少なさ、保護者や学校関係者によるアンコンシャス・バイアスなどが、女子中高生の進路選択に影響していることが指摘されています。学生とのダイバーシティ活動を通して次世代のリーダーを育成し、多くの若者に興味をもってもらえるような魅力ある情報を発信していきます。また、研究者の女性比率14%に向けた環境・制度の充実と男女共同参画推進に加え、多様性を尊重し、だれもがいきいきと輝ける大学になるよう、活動していきます。